



▶当院で可能な形成外科手術について

— 形成外科 福岡 晃平 —



形成外科は、一般的に体表面皮膚すべてを対象とし、皮膚腫瘍、外傷、熱傷、瘢痕、ケロイド、奇形などを扱います。最近、増加傾向にある糖尿病にともなう足病変や褥創など、難治性創傷の管理、治療もおこないます。また、加齢による眼瞼のたるみ、ゆるみなど、眼瞼下垂症に対する手術も行っています。

診療は週1回（木曜日）ですが、局所麻酔、全身麻酔の手術を行える環境が整っており、形成外科診療のほぼ全般にわたる外科治療が可能です。特殊な診療や手術が必要な場合は大学病院等に紹介させていただきますので、まずは当科にご相談下さい。

がんげんかすい
眼瞼下垂…上まぶたが垂れ下がった状態をいい、視野が狭くなるという機能障害を持つ。保険適用の疾患。



眼瞼下垂イメージ

➤第33回院内研修発表会について

令和元年11月14日に「選ばれる病院を目指して」～安心を生み、信頼を得るために～をサブタイトルとして、院内研修発表会が開催されました。今回は、医療技術部、看護部、事務部、診療部から6題が発表されました。

- | | | |
|--|------------|------|
| ① 当院におけるCT検査の被ばく線量評価 | 放射線技術室 | 今井一秀 |
| ② 土曜日リハビリ提供の取り組みについて | リハビリテーション課 | 広江 勝 |
| ③ 3階病棟 Before After～なんということでしょう!!! | 看護部 | 松本由夏 |
| ④ 経営改革室の取り組み | 経営改革室 | 秋原康男 |
| ⑤ 地域包括ケア病棟におけるミニデイの現状と課題
～患者さまに笑顔で退院していただけるように～ | 看護部 2階病棟 | 森 由美 |
| ⑥ 当院における鼠径ヘルニア手術について | 診療部 | 菅村健二 |

これら発表の内容は「ひろば」に掲載予定です。
今回は、その中の一部を紹介します。

➤当院における鼠径ヘルニア手術について

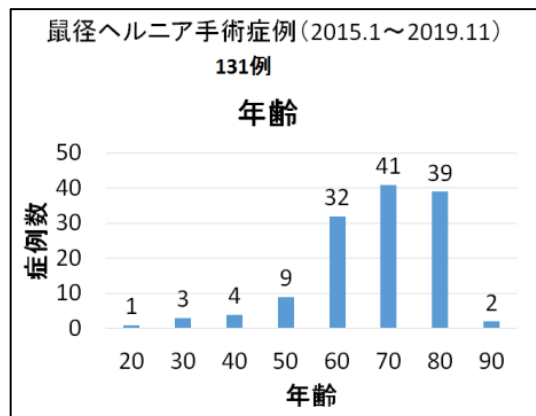
— 外科部長 菅村 健二 —



当院では、鼠径ヘルニアの手術治療に、2015年11月から腹腔鏡下手術を導入しました。1995年1月から2019年11月までの、約5年間の鼠径ヘルニア症例131例（146病変）について検討しました。

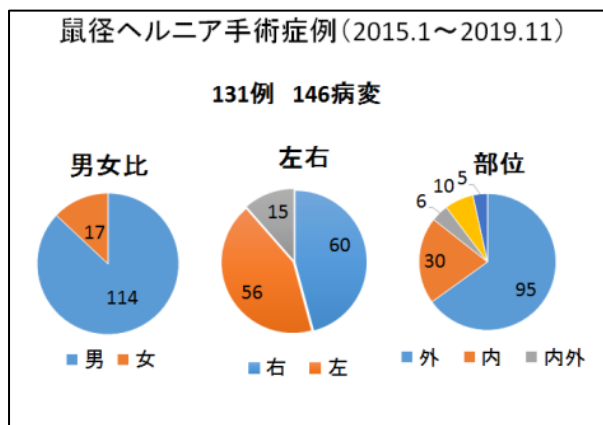
ヘルニアとは、臓器や組織がもとあった場所から脱出している状態を指し、鼠径部には元来弱い部分があり、そこから腸管などが脱出したものを鼠径ヘルニアと言います。脱出した腸管などが戻らない状態を嵌頓状態といい、脱出腸管の血行障害を来すことがあり緊急手術が必要となります。鼠径ヘルニアには外鼠径ヘルニア、内鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアがあります。

当院における鼠径ヘルニア手術（2015年1月から2019年11月）は、131例（146病変）であり、60歳台、70歳台、80歳台の患者さんが多かったです。（図1）。男性114例、女性17例と男性に多く、左右差はなく両側症例が15例でした。脱出部位は外鼠径ヘルニアが多かったです。（図2）。嵌頓による緊急手術は、外鼠径ヘルニアで95例中

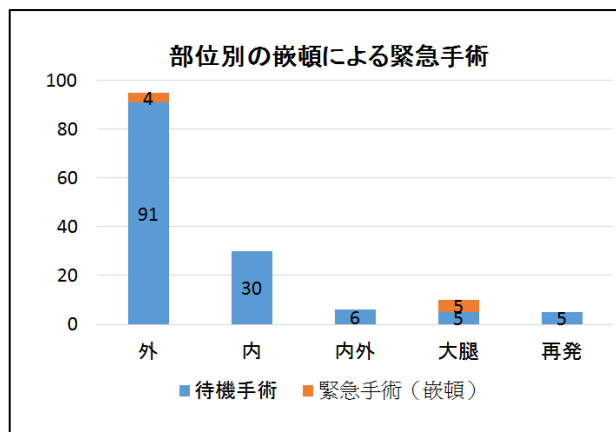


(図1)

4例とまれでしたが、大腿ヘルニアは10例中5例と高頻度に認めました(図3)。



(図2)



(図3)

鼠径ヘルニアの自然治癒は期待できないため、症状によってはしばらく経過を見ることもありますが、治療は手術治療が原則です。手術治療には、鼠径部切開法と腹腔鏡下手術があります。

当院では、鼠径部切開法ではメッシュプラグ法を、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術ではTAPP(transabdominal preperitoneal repair)を行っています。いずれもメッシュ(人工物)を使用した手術です。術後合併症には、出血、感染、創部の腫脹、再発、反対側ヘルニアの発症、漿液腫、術後慢性疼痛などがあります。腹腔鏡手術の利点は、術後疼痛の軽減や創が小さく整容性に優れること、入院期間の短縮、早期社会復帰、慢性疼痛の減少、不顕性の反対側を含めたヘルニアの診断ができることなどがあげられます(図4)。

腹腔鏡手術の利点

- 術後疼痛の軽減
- 創が小さく整容性に優れる(美容的)
- 入院期間の短縮
- 早期社会復帰
- 慢性疼痛の減少
- 不顕性の対側を含めたヘルニアの診断ができる

(図4)

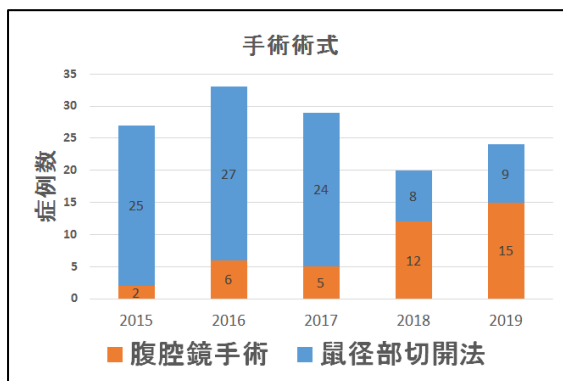
腹腔鏡手術の欠点

- 全身麻酔が必要
- 手術時間が長い
- 技術的な面
- 腹腔鏡に伴う合併症
- 医療費

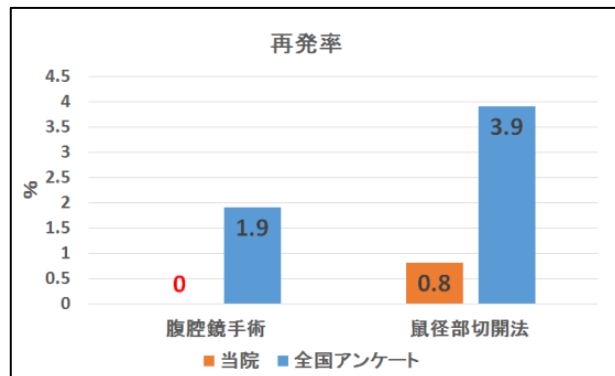
(図5)

腹腔鏡手術の欠点として全身麻酔が必要なこと、手術時間が長いことなどがあげられます(図5)。手術術式別にみると、腹腔鏡手術症例は年々増加し、2019年は11月までに24例中15例で腹腔鏡手術を行っています(図6)。当院の腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(TAPP)は手術前日入院、術後3日目退院の4泊5日のパスで治療を行っています。治療成績で問題となる再発率についてみてみると、全国アンケートと比べ良好な成績です(図7)。

当院における鼠径ヘルニア手術について検討しました。近年、適応症例に対しては、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（TAPP）を行っています。腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術導入後も、大きな合併症は認めず、再発も認めていません。腹腔鏡下手術は疼痛の軽減や整容性など患者のメリットがある術式であります。今後も鼠径ヘルニアの手術は、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を第一選択として行ってゆく方針です（図8）。



(図6)



(図7)

まとめ

- 鼠径ヘルニアは男性に多く、外鼠径ヘルニアが多い
- 大腿ヘルニアは症例数は少ないが嵌頓のリスクが高く注意が必要
- 腹腔鏡下手術導入後も大きな合併症は認めず、再発も認めていない。
- 腹腔鏡下手術は、疼痛の軽減、整容性など患者のメリットがある。
- 今後も腹腔鏡手術を第一選択として行ってゆく方針。



腹腔鏡手術イメージ

(図8)

▶地域包括ケア病棟におけるミニデイの現状と課題

～患者さまに笑顔で退院していただけるように～

— 2階病棟 介護福祉士 森 由美 —

地域包括ケア病棟では、退院支援のひとつとして、患者さまに対し発声や軽い体操、手作業や思考を使うゲームを行っています。小さなデイケアのような活動であることから、2階病棟では「ミニデイ」と呼んでいます。

ミニデイの目的

- ◇入院患者の離床促進、認知機能の向上を図ることで、入院中のQOLの向上はかる。
- ◇集団の中で行動することで、患者の認知機能を高める一助とする。
- ◇発声する・体を動かす機会を意図的に作り、患者のADL向上の一助とする。
- ◇患者・家族が、退院後のサービス（デイサービスなど）をイメージすることができる。

約2年前に地域包括ケア病棟に介護福祉士が配属となり、現在の形でのミニデイを404回開催し、のべ2,656人、1日平均6.57名が参加されています。

このような活動によって、実際には患者さまにどのような変化がみられているか、病棟スタッフはどの程度認知しているかなど、自分たちの活動を振り返るとともに、さらなるサービス向上を目的に調査を行いました。今回は、その一部を紹介したいと思います。

【アンケート結果（抜粋）】

1. 医師や地域連携室スタッフのミニデイに期待する効果

ミニデイに参加することで、引きこもりにならず知らない人とも話ができる、といった社会性の維持、回復

2. スタッフの感じたミニデイの効果

参加を楽しみにしておられる方や、その日に何をしたかを話してくださる方もおられ、今まで見られなかった笑顔がミニデイの時だけで無く度々見られるようになったミニデイに参加される方の中には、普段からスタッフと他愛も無い話を笑顔でできるようになる方や、これまで在宅福祉サービスを全く受け入れられなかった方が、ミニデイを契機にサービスを利用された方もおられた

3. 今後の提案

今後、他病棟の患者も参加できたり、開放的な場所（ロビーのような）で実施できたり、季節の絵等の患者の作品を増やし病棟を飾れると良い

アンケート全体としては、改善点を指摘する声もあったが、効果も多く感じられており、取り組みに対しての提案も多数聞かれたことから、ミニデイに対する期待は大きく、病棟外からも良い評価を受けていると考えました。

高齢化する患者層や認知症の患者さまが増加している現状を踏まえると私たちが、行っているような活動について、病院全体で取り組むことも必要ではないかと思えます。介護福祉士のマンパワー不足や、内容多様化への取り組み等の課題を全て解決することは難しいかもしれませんが、活動を少しでも理解してもらう事は、より良い活動にしていく為の第一歩になるのではないかと思います。

今回の調査で、ミニデイに対しての肯定的な意見が多く得られたことは、開催する者としては今後の励みになりました。しかし、改善を求める意見があることにも十分に目を向け、検討を重ねていくことが今後の課題であると考えます。

今後も、開催する側からの関係スタッフへの効果的な情報発信を継続し、他職種と協力することで患者さまが、笑顔で退院していけるような支援をしていきたいと考えています。

地域連携室は先生方のお役に立てるよう尽力します。
 ご依頼お待ちしております！



安来市立病院
 院長 水澤清昭



ご依頼・ご意見はこちらまで

安来市立病院 地域連携室
 担当：竹田・田中・長島・阿部・金山
 予約受付時間 8：30～17：00
 TEL 0854-32-2333
 FAX 0854-32-2335

小児科 診療体制変更のお知らせ

2月3日より復帰しました。
 下記のとおり診療体制を変更しています。
 みなさまには長らくご迷惑をお掛けしましたが、
 今後ともよろしく願いいたします。



太田原医師

	月	火	水	木	金
午前	太田原	大学医	太田原	太田原	太田原
午後	太田原	大学医	太田原	太田原	太田原
夜間小児				17:30～ 21:30 (受付は21時まで)	